

熱線反射ガラス製品

個別

レフライト

●設計・施工上のご注意

- ご採用にあたっては、耐風圧強度、熱割れなどをご検討のうえ、ガラス品種・呼び厚さ・面積を決定してください。特に、熱割れの発生しやすい条件での使用に関しては、十分に検討する必要があります。
- 製品は十分に管理された工程で製造されていますので平滑性に優れていますが、その反射像に若干のゆがみが生じます。また製造上、色調の違いが生じる場合がありますのでご了承ください。
- 反射膜面は実用上十分な性能を備えていますが、膜面を金属など硬度の高いものでこするとキズがつく場合がありますのでご注意ください。一度ついた傷は補修できませんのでご注意ください。
- 可視光反射率が一般のガラスに比べて高いため、反射光が周辺の建物や交通に影響することがあります。必要に応じて反射光の軌跡をご検討ください。
- 可視光反射率が一般のガラスに比べて高いため反射像のゆがみが誇張されることがありますので、より優れた反射映像にはサッシを含め特殊バックアップ材を用いるなど、施工によるゆがみが少なくなる納まりとしてください。
- 飛散防止フィルムを貼り付けおよび貼り替えする場合はフィルムメーカーへお問い合わせください。
- アルミカーテンウォールの場合、水抜き穴などによる排水は方立サッシより排水される構造にしてください。
- カーテンウォール、タイル、石などの洗浄の際、薬剤（強酸・強アルカリ・フッ化水素など）によってガラスの膜面が侵されることがありますのでガラス面の養生を十分にしてください。
- シーリング材や油脂分を除去するため、シンナー、トルエン、アセトン、アルコールなどの溶剤を使用した場合は十分な水洗いをしてください。
- 合わせガラスなどの加工を施した場合は製造上、反射像のゆがみが大きくなりますのでご注意ください。
- 施工にあたってはシリコン系の弾性シーリング材をご使用ください。プライマーは反射膜面に適した製品を選択してください。
- プライマーが付着した場合、放置しておくこと取りにくくなりますので、養生膜の周辺はマスキングテープで完全に保護してください。万一、プライマーが付いた場合は直ちにトルエンなどで除去し、その後水で洗い流してください。
- 保管、あるいは施工時にガラスにキズをつけると熱割れの原因となりますので、十分ご注意ください。
- 保管にあたっては、雨や日射の当たらない風通しのよい室内で、ビニールなどで覆って汚れないようにしてください。室外に放置すると汚れや熱割れの原因となりますのでお避けください。
- レフライトはガラスの片面だけに反射膜を焼付加工してあります。膜面は室内側または室外側どちらかに統一して施工してください（非反射膜面にはラベルが貼付してあります）。ただし、常時結露状態となっている温水プールの窓などの部位には反射膜面を温水プール側に使用することは絶対にお避けください。
- 外壁が無処理の耐候性鋼の場合やタイル貼りなど汚れが発生しやすい外壁で、ガラスと同一面にて施工される場合、膜面は室内側にご使用ください。
- 反射膜面に養生フィルムを貼る場合、膜面に悪影響を与えない良質のフィルムをお選びください。（指定品：日東電工製SPV-224）この場合でも養生フィルムは6カ月以内に取り除くように工程管理をご検討ください。
- 反射膜は、透過する光の条件や角度によって、部分的に白く見え、色調がムラとなって見える場合がありますが、性能面での支障はありません。

●使用・メンテナンス上のご注意

- フロート板ガラスに比べ反射率が高いため、同程度の汚れでも目立ちがちです。常に美しい反射像を維持するためには一般の板ガラス以上に入念なメンテナンスが必要です。
- クリーニングは水洗いが適当です。落ちにくい汚れの場合は中性洗剤を使用しその後、水で洗い流してください。
- クリーニングの際、反射膜面を損傷しないようガラス面に付着した砂などの固形物は水で取り除き、清浄な布やスキージーで清掃してください。なお、スキージーを使用する場合、裏面の金具がガラス面に当たるような使い方をしなす反射膜にキズがつきますので絶対にお避けください。
- 落ちにくい汚れは適量の液状中性洗剤を用いたあと水拭きします。なお、砥粒・酸・アルカリ・フッ化水素などが含まれる洗剤で清掃すると反射膜面をキズつけるおそれがありますのでお避けください。
- 冷暖房の吹き出し空気をガラス面に直接当てたり、ガラスに密着するようなロッカーやパーティションの設置は熱割れの原因になります。
- ガラスの表面にフィルムや紙などを貼ったり、塗料を塗ると熱割れすることがありますのでお避けください。反射膜面やガラス面のクリーニングが困難になるうえ、熱割れの原因となります。
※フィルムの取り扱いについてはフィルムメーカーへお問い合わせください。
- 室内側ガラスの近くにダンボール箱等、物を置くことはお避けください。一時的な仮置きの場合でも熱割れが生じることがあります。
- 通常のカーテンウォールでは清掃は2～3カ月ごとに実施してください。外壁がコンクリートやモルタル仕上げの場合にはアルカリの影響を防ぐため、必ず1カ月に1回程度の清掃を行ってください。